

庄内藩最強伝説と庄内の地理



山形県立致道館高等学校 2年 社会科学ゼミ

動機

庄内藩の強さの秘訣には、本間家の経済力や酒井玄蕃の強さが言われるが、他にも理由があると思い地理に着目しようと思った。

仮説

山々に囲まれている庄内地方の地形が天然の要害になり敵軍の進軍を妨げて、防衛戦がやりやすかったのではないか。

調査方法

- ・戊辰戦争における庄内での戦闘に関する文献を調査
- ・国土地理院や赤色立体地図を使い地形を調査
- ・戦闘があった地域に行き調査

ご協力

清河八郎記念館 様

清川関所食事所 御殿茶屋 様

瑞芳院 様

調査結果と考察

<清川口の戦い>

最上川北岸の山に松山軍(味方)が陣取ったため、新政府軍と2対1の挟むような構図で戦いに臨むことができた。



<中浜の戦い>

鼠ヶ関南に大きな岩壁があり、天然の防壁として新政府軍の進軍を妨げ、庄内軍がその岩壁上から鉄砲射撃や砲撃をすることができた。



今後の課題

庄内と同様に山に囲まれた会津藩との違いや、庄内藩と新政府軍の戦力の違いを比較する必要がある。

庄内藩最強伝説と庄内・会津の地理



山形県立致道館高等学校2年

社会科学ゼミ

中間発表までの調査

地理の観点から庄内地方での戊辰戦争の戦いを2つ取り上げ調査した。

＜清川口の戦い＞

松山軍が北の尾根を陣取り、敵の進軍を最上川と立谷沢川が阻んだ。

＜中浜の戦い＞

岩壁の上からの砲撃、狭い街道で敵の進軍速度が落ちた。

以上より、山だけでなく河川や海も重要であったと考えた。

調査結果と考察

＜酒田湊と最上川＞

庄内藩は酒田湊を使い、オランダ・プロイセンとの密貿易や、江戸からの補給ができた。また、進軍ルートに沿って最上川が流れていたため兵站の確保・補給が容易だった。



＜新潟湊と阿賀野川＞

会津藩は新潟湊から阿賀野川を使って物資補給をしていたが、津川(阿賀町)～会津は陸路であったため、効率が良いとは言えない。戊辰戦争末期には新潟の長岡藩が新政府に降伏したため、新潟湊を活用した補給が不可能になった。



動機

連勝を重ねた庄内藩と苦戦を強いられた会津藩について、差が生まれた要因を地理に着目して調査しようと思ったから。

仮説

共に山々に囲まれた庄内・会津の両地域、大きく影響したのは、最上川や赤川などの河川や酒田湊をはじめとする港などの水運ではないか。

ご協力・参考文献

『鶴岡市史』鶴岡市史編集会

朝日新聞 2018年12月27日

『会津落城』星亮一

『阿賀野川の流域紹介』国土交通省

清河八郎記念館 様 瑞芳院 様

清川関所食事所 御殿茶屋 様

結論

局地戦においては、庄内藩は庄内地方の山や河川、海を有効に利用し、数々の戦いに勝利した。地理的な面では、酒田湊や最上川を有効に利用して、充実した後方支援を実現させた。以上より、庄内藩は戊辰戦争で最強と呼ばれるまでに強かった。